

 <p>開校明治七年 開校147年目</p>	<h1>宗岡小だより</h1> <p>学校教育目標 よく考える子 思いやりのある子 心も体も元気な子</p>	<p>めざす学校像 「子供達一人一人の居場所があり、輝ける学校」 「安全・安心できれいな学校」</p>	<p>9月の生活目標 おちついた 生活をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ろうかやかいだんは右側を歩こう ・しずかに話を聞こう。
		<p>令和3年9月号 志木市立宗岡小学校 児童数 452名・学級数 18学級 住所 志木市中宗岡3-1-1 TEL 048-471-0307</p>	
<p>基本理念「自分がすき 友だちがすき 町がすきな 宗小の子」</p>			

二学期もよろしくお願ひいたします

校長 石田 賢一

39日間の長い夏休みが終わり、今日から2学期が始まります。この夏休み期間中に新型コロナウイルスの感染が広がり、埼玉県にも緊急事態宣言が発令されました。学校におきましては、今までの新型コロナウイルス感染防止の取組を徹底するとともに、様々な事象に柔軟に対応してまいりたいと思います。

すでに市教育委員会からさくら配信メールで伝達がありましたが、8月30日、31日は3時間授業、9月1日～3日は午前中4時間授業で給食後に下校し、午後はリモート授業を1コマ行います。このリモート授業は、今後更なる新型コロナウイルスの感染拡大に伴う臨時休業が実施されたり、万が一児童が濃厚接触者に指定され、一定期間自宅待機となったりした場合を想定し、本校の全担任と全児童がタブレットを活用したリモート授業を経験することが大きな目的であるととらえております。つきましては、各御家庭のおかれましても御理解と御協力をお願いいたします。

さて、7月23日から開催が1年間延期されていた東京オリンピックが行われました。日本は今まで最高記録となる金メダル27個、銀メダル14個、銅メダル17個の合計58個のメダルを獲得しました。新型コロナの影響で多くの競技が無観客での開催となりましたが、テレビやネットを通して多くの人々が観戦していたと思います。私自身も家にいる時には、テレビのオリンピック中継に熱中し、日本選手を静かに応援していました。

特にオリンピック前半に行われた柔道は埼玉県出身の女子70kg級の新井千鶴選手をはじめ9個の金メダルを獲得するなど大活躍し、日本選手団躍進の勢いをつけました。日本柔道の躍進を実現したのは、監督の井上康生氏です。2002年のロンドンオリンピックでは、日本柔道陣の金メダルは1個という過去最低の成績でした。ロンドンオリンピック後に監督に就任したのが、井上康生氏です。井上監督は、監督就任後に「①情報分析の強化」、「②選手との関係強化」の2点を掲げて指導に当たったそうです。

「情報分析の強化」として日本独自の分析システムを作り、10万件以上にわたる過去の試合映像から相手の技や癖などを徹底的に分析し、終わったばかりの試合でも、選手やコーチがすぐに、スマホなどで見られるようにしたそうです。これまでは感覚に頼ってきた動きを数値化し、実戦や練習に生かすことで、日本の選手が派手な技で1本勝ちをすることが少なくなりましたが、負けない柔道をすることで、国際大会で大きな成果を出すようになったそうです。

この「情報分析」は、学校においても重要な内容です。例えば埼玉県独自の取組である「埼玉県学力学習状況調査(県学調)」では、小学校4年生以上の子供達の学力の伸びを調査していくものですが、学校においてもこの県学調の内容を分析し、授業の改善に取り組んでいます。

また、「選手との関係強化」として井上監督の体制になってから国際大会等が終わった次の日に必ず選手と監督がマンツーマンで話す時間が設けられたそうです。どちらかという監督の強いリーダーシップの下で、監督の指示通りの練習に取り組んできた選手は驚いたそうです。上から物を言うだけでなく、しっかりと選手と意見交換し、選手目線で考える指導者を目指したそうです。このため、選手一人一人が自分で考え、指導者との強い信頼関係の中で戦ったことが、国際大会での成果につながったそうです。

この「選手との関係強化」は、「選手」を「児童」と読み替えれば、学校においても「情報分析」同様に重要な内容です。本校の目指す教師像に「児童を理解し、児童を大切にできる教師」があります。本校でも教職員一人一人が子供目線で考えることができる指導者を目指していきたいと考えております。コロナ禍であるからこそ、子供たち一人一人をしっかりと見守り、わかりやすい授業を展開していきます。

二学期も教職員一同、精一杯頑張ってもらいますので、御理解と御協力を引き続きよろしくお願ひいたします。

